取扱いの趣旨

当該検査は、通常、初回検査で心不全の診断又は病態把握が可能であり、その後の経過観察における連月の算定は不必要と考えられるため、原則として認められない。

DX審査支払機構が公表している取扱いの全文

【検査】　《令和6年9月30日》

319　心不全の疑いに対する連月の脳性Ｎａ利尿ペプチド（ＢＮＰ）等の算定について

○　取扱い

心不全の疑いに対する連月のＤ008「19」脳性Ｎａ利尿ペプチド（ＢＮＰ）、Ｄ008「21」脳性Ｎａ利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント（ＮＴ-ｐｒｏＢＮＰ）の算定は、原則として認められない。

○　取扱いを作成した根拠等

脳性Ｎａ利尿ペプチド（ＢＮＰ）又は脳性Ｎａ利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント（ＮＴ-ｐｒｏＢＮＰ）は、心不全の診断又は病態把握のために実施する検査である。心不全の疑いに対して、通常、初回検査で心不全の診断及び病態把握が可能であることより、その後の経過観察における連月の算定は、不必要と考えられる。

以上のことから、心不全の疑いに対する連月のＤ008「19」脳性Ｎａ利尿ペプチド（ＢＮＰ）、Ｄ008「21」脳性Ｎａ利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント（ＮＴ-ｐｒｏＢＮＰ）の算定は、原則として認められないと判断した。

なお、連月ではない場合の妥当な算定間隔については、個々の症例ごとの判断とする。

グラフの見方

1　棒グラフ(該当レセプトの審査結果)
　当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2　折れ線グラフ
　取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】審査の結果

査定	返戻	：取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	：検証が必要

審査結果の概要

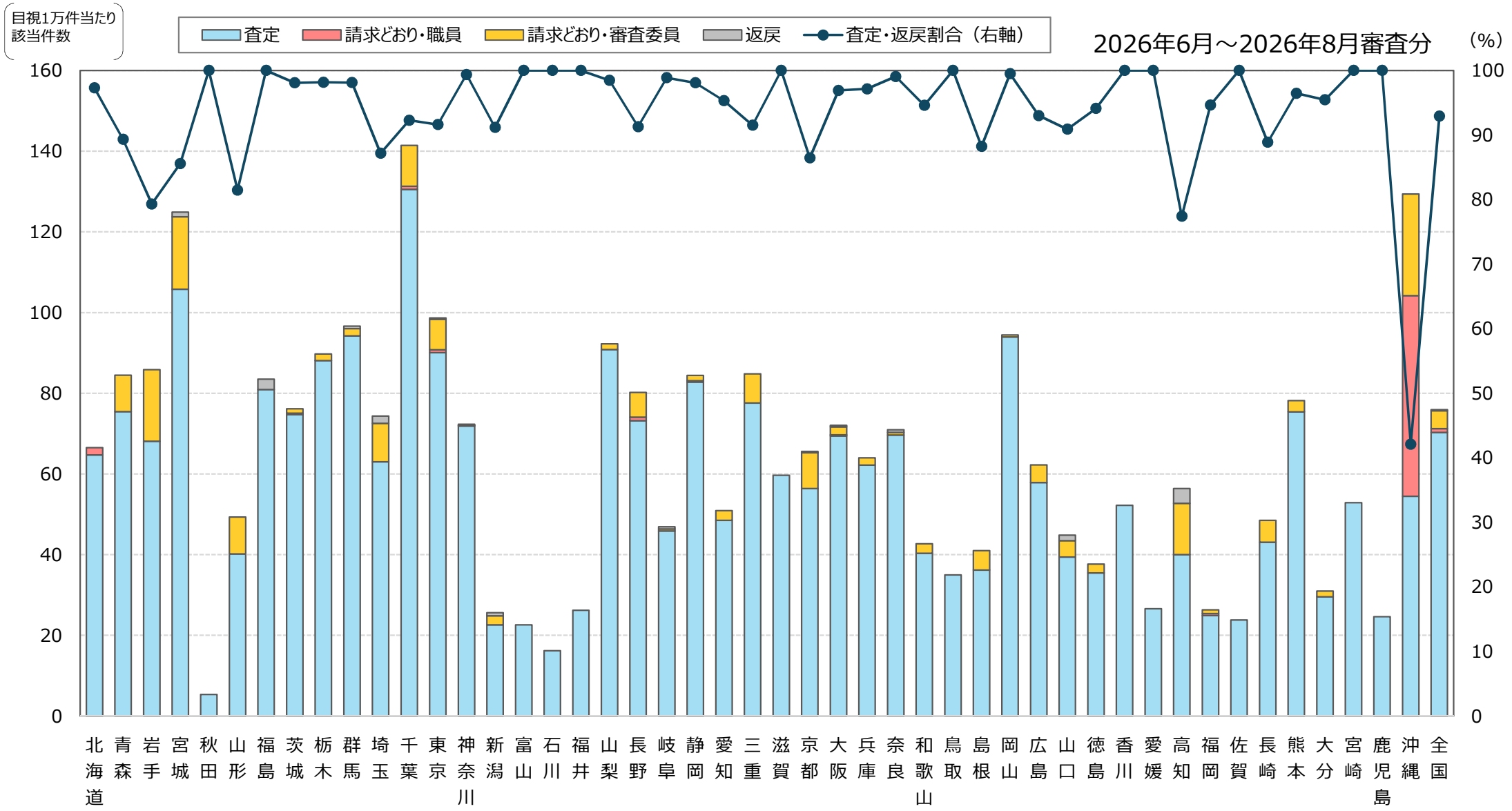
- 全国の査定・返戻割合　92.92%
- 検証対象都道府県　13

検証観点	都道府県	備考
査定・返戻割合が低い	沖縄、高知、岩手、山形、宮城、京都、埼玉、島根、長崎、青森、東京、千葉、大阪	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	沖縄、千葉、東京、大阪	対象１万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	沖縄、宮城、岩手、高知、千葉、埼玉、山形、青森、京都、東京、長崎、島根、大阪	〃

該当件数（全国）	【条件】	8,864件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	8,236件
検証を必要とする審査	請求どおり	628件

一般319　心不全の疑いに対する連月のBNP又はNT-proBNPの取扱い

【認めない事例】



	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	全国
該当件数	334	103	58	340	4	27	96	210	165	160	460	934	1,671	636	34	14	17	13	65	92	89	261	299	118	78	214	807	385	108	37	13	17	196	143	33	17	45	30	31	56	9	45	113	22	43	32	190	8,864
請求どおり件数	9	11	12	49	0	5	0	4	3	3	59	72	140	4	3	0	0	0	1	8	1	5	14	10	0	29	25	11	1	2	0	2	1	10	3	1	0	0	7	3	0	5	4	1	0	0	110	628

【該当件数】取扱いの趣旨に該当したレセプト件数